

県研究主題  
社会的な見方や考え方を養い、より良い社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 和田 俊雄 (川崎地区)

研究主題  
新学習指導要綱改訂の要点に沿った、公民的分野の授業改善

## 1 提案内容

単元名 「私たちと経済」 ～市場の働きと経済～

### (1) テーマ設定の理由

公民的分野で学ぶ「経済」は、難しい感じがするが、子どもたちは普段の消費活動などを通して、経済にかかわる活動を意識しない中で行っている。そこで、経済をより身近に感じて生活をするができるようになってほしいと考えた。そして私たちが生活する資本主義経済の中で、大きな役割を果たしているのは企業である。その企業を中心として「経済」を理解させることをねらいとして、身近な題材として「ハンバーガーショップをつくらう」という視点で経済の基本について学習させることとした。

また新学習指導要領では、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」などの見方や考え方と関連付けて理解させたり、判断させたりするようにしている。その見方や考え方をを使って、身近な経済活動を考える力を身につけさせることもねらいとしている。

### (2) 単元づくりの工夫

- ① 「ハンバーガーショップの経営」を単元を通す柱に据え、それを通じ経済の基本を理解するようにした。
- ② ハンバーガーショップの出店と利潤の追求を通じ、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の考え方をそれぞれ1時間ずつとらえさせた。
- ③ 「言語活動」を②の2時間と最終の時間に、それまでの時間に学習したキーワードから自分の言葉で経済についての本単元の基本的内容をまとめさせるかたちで行った。

### (3) 実践内容

- ① ハンバーガーショップを経営して、経済の基本を理解しよう
  - ・利益を上げるためには、どのような工夫が必要なのかを考えて発表する
- ② 企業はどのようにして商品をつくっているのだろうか
  - ・企業について調べる
- ③ 価格はどうやって決めているのだろうか
- ④ どこにお店をつくればたくさん売れるか考えよう
  - ・現代社会をとらえる学年的な枠組みの基礎となる「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の考え方を、それぞれ1時間ずつに分けてとらえさせた。(4・5時間目と6時間目に分けた)
- ⑤ 企業としての社会的な責任や役割を考える
- ⑥ ハンバーガーショップを経営するときに必要なことは何だろうか
  - ・「言語活動」を取り入れた。学習方法は、単元の前時間で学んだキーワードを

書き出してから、そのキーワードを活用して、自分の言葉で経済について本単元の内容をもとにまとめる

#### (4) 成果

- ① 身近な題材として「ハンバーガーショップをつくろう」という視点で経済の基本について学習することにより、どうすれば企業が利益を上げることができるのかを具体的にイメージして考えることができた。
- ② イメージしやすい企業を扱うことにより、その活動により引き起こした社会的な責任問題などについても気づくことができ、学習した知識や見方を使って、資本主義経済の仕組みの中での企業活動について語る事ができた。

#### 2 研究協議

- ① ハンバーガーショップの出店に関するマーケティングの論議が、本単元における「対立」と「合意」という視点になりうるか疑問である。
- ② 大型店の出店と地元商店街や近隣住民との関係からとらえた方が「対立」と「合意」につながるのではないか。
- ③ 単元の導入時にこの形式の授業を行うか、まとめで行うか熟慮が必要である。
- ④ 経済の中で「対立」と「合意」の視点がでていて良かった。「合意」への過程で「効率」が重視されたが、政治の分野では人権などの点で「公正」が重視されると考える。
- ⑤ 話し合いの方法は社会科だけにとどまらず、全教科に通じるものがあつたので参考にしたい。
- ⑥ 一企業のソフトで立地条件の答えを示してしまうと、その答えのみで授業が完結してしまう様になってしまう。自分の意見を他者と比較することが大切であり、そこに様々な社会的な要因について考えさせたい。

#### 3 まとめ

- ① 先行実施の中で「対立」と「合意」を扱ったのでこの形になった。単元の内容に関し、今回の「対立」と「合意」はずれるところもあった。
- ② 駐車場の「前向き駐車」や、「エンジンストップ」の必要性などから、様々な人々の利益を扱うなどの方法も考えられる。
- ③ M社はなぜこのようなマーケティング戦略をとっているか考えさせてはどうか。
- ④ 「対立」と「合意」、「効率」と「公正」はセットで扱わないこともあり得る。
- ⑤ 「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の視点を取り入れた授業することで、他の単元でもいかしていき、授業を進めていくことができる。
- ⑥ 「基本的・基礎的」とあるのは「簡単な・初歩的」ととらえるのではなく、「より重要な・より確実に考えさせたい」と考え、これに基づき教材を選択し授業することが大切だと考える。

## 〈研究主題〉

社会的な見方や考え方を養い、よりより社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成する学習指導と評価の工夫・改善

－新学習指導要領全面実施を踏まえた教材開発と指導方法の研究

～地理的分野を中心に～

## 1 提案内容

- ① 単元名 地理的分野 世界の諸地域「南アメリカの多様性と日本とのつながり」  
・授業実践と教材研究

- ② 新学習指導要領に向けた鎌倉市の取組と実践  
・鎌倉市共通の取組

全市の中学校で、全教科ともに統一の書式による単元計画、評価計画の作成

## (1) テーマ設定の理由

世界の諸地域については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを本に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させるとしている。

それぞれの州の地域的特色を理解させるには、まず、基礎的・基本的な知識を習得する学習を行い、それらの知識を活用して生徒の生活と結び付く地理的事象を取り上げ、生徒の関心と結び付きやすい主題を設定し追究する中で、地域的特色が明らかになるように学習を展開していくことが大切であると考えた。

## (2) 実践内容（授業風景をビデオで紹介）

- ① ビデオレター（外国人からのメッセージ）を通じて、南アメリカ州の概観をつかむ。
- ア. ビデオレターによる外国人の自己紹介
  - イ. ビデオレターで、それぞれの外国人の出身国に関するヒントを出してもらい、国名を生徒たちが当てる。
  - ウ. ビデオレターで、それぞれの外国人の出身国と日本とのつながりを話してもらい、内容を聞き取る。
  - エ. ビデオレターで、それぞれの外国人が日本語を話せる理由を話してもらい、日本への関心の持ち方や国際結婚、日系人の存在などを知る。
  - オ. ビデオレターで、「ビデオレターをくれた外国人の出身国のよいところを10個以上探す」という生徒へのミッション（課題）を出してもらおう。また、後日教室に来るビデオレターの本人たちへの質問も考えるように補足する。
- ② ビデオレターをくれた外国人の出身国のよいところ探しの学習を個人とグループで行い、グループで発表する準備をする。
- ③ グループごとにビデオレターをくれた外国人の出身国のよいところを発表し、2つの国の相違点と共通点を理解する。この発表には、ビデオレターをくれた外国人本人にも参加してもらおう。

## (3) 成果

- ① 市全体で研究、意見交換をすることにより、指導計画や授業の工夫について方向性が見えた。

- ② 外国人から実際に話を聞くことができ、生徒の意欲の高まりにつながった。そして、学習を進める中で生まれた疑問についても、生の情報を聞くことで、内容を深めることができた。
- ③ 連携した外部団体には、生徒の実情や学校側の要望に合わせて様々な人材を紹介してもらい、授業提案を行ってもらっているため、教科書の内容に沿った地理的分野の授業としての活用ができた。
- ④ 調べ学習の際には、テーマごとに資料を集めてグループで協議を行うことにより、発表内容を練り上げる過程において生徒たちの思考力が高まった。
- ⑤ 実際に外国人（その地域と関わりのある人）の前で発表することにより、相手の立場に立って発表内容を工夫するなど表現力の向上が見えた。

## 2 協議内容

- ① 市全体で単元計画・評価計画をまとめたことで、どんなメリットが見られたのか。
  - ▶ 相互の意識が高まったことが最もよかった点だと考える。一方、世界の諸地域の主題設定は、学校ごとにかなり違っていた。
- ② 授業の形態が地域的特色を主題としたものにならないのではないかと。
  - ▶ 日系人や日本とつながりのある地域というイメージはつかめると思う。また、今回はアマゾン川の流域に関係のある国なので、環境という観点から学習を深めることができる。
- ③ 現地の人との交流はよいと思うが、単なる国調べになっていないか。
- ④ 本物にふれる教材の工夫が参考になった。
- ⑤ 国別の視点ではなく、州の全体像をとらえて展開していく手だてが必要ではないのか。
  - ▶ 調べ学習の途中で、資料や情報を追加することによって、全体像をとらえて展開していくことで州の全体像を俯瞰するような学習になっている。
- ⑥ 会話のシナリオや設定の準備はどうやっているのか。
  - ▶ 外部団体（スクールボランティアの登録をお願いしている）を活用している。国当てクイズのヒントは地理的条件の積み重ねになるように工夫されている。また、教科書（教育出版）にあるコラムを実体験できるように工夫している。
- ⑦ 単元の中で言語活動と評価の手だてをはっきりとさせていく必要があるのではないかと。
- ⑧ 世界各州で同じようなパターンになる心配がある。

## 3 まとめ

- ① グローバル化する世界の中で、諸地域の実態がわかるような授業を展開できるのがよい。
- ② 小学校ではほとんどない、動態地誌的な学習の取組をしていくことが重要である。
- ③ 中学校1年では、社会的な技能や思考・判断・表現を本格的に活用できる力を身につけさせることが必要である。
- ④ 各州の大観ができる授業実践と教材開発が急がれる。単元構成を常に見直し、多様な主題設定をしていくことが望まれる。言い換えるならば、地域的特色を端的に捉える主題と単元構成が必要になってくる。